

Magic xpi 4.14 デプロイガイド



OUTPERFORM THE FUTURE™

はじめに	3
IMM アーキテクチャの用語と理解	3
インストール概要	4
インストール前提条件	4
セットアップウィザード手順	5
セットアップウィザード終了後の設定手順	5
IMM 用の Linux Host の構成	10
前提条件	10
WSL 有効化	10
Ubuntu のインストール	10
Installing MicroK8S	11
WSL マシンの IP アドレスの検索	11
MicroK8S add-ons の有効化	12
xpi インストールでの IMM ドメイン名の管理	12
ファイアウォールの設定	13
プロジェクトのデプロイ	14
プロジェクトフォルダの位置	14
プロジェクトのデプロイ	14
モニタでのプロジェクトの開始/停止	14
コマンドラインからのプロジェクトの起動 (オプション)	15
Magic モニタユーザ	16
Web リクエストと SOAP サーバのデプロイ	17
前提条件	17
Java Web リクエスト	17
ライセンス	18
各プロジェクトのライセンススレッドの確保	18
ホストロックライセンス	18
Magic Software Enterprises について	19

はじめに

この文書では、Magic xpi 4.14 とその基盤となるミドルウェアである新しい「インメモリミドルウェア」サーバを導入するための推奨事項とガイドラインについて説明します。

また、この文書では、Magic xpi のインストールと設定、IMM のインストール、Magic xpi と IMM の統合の手順について説明します。

IMM アーキテクチャの用語と理解

Magic xpi インフラストラクチャは、xpi インストーラで提供されるインメモリ ミドルウェア上に組み込まれており、これはインフラストラクチャの基礎となるメッセージング層として使用されます。

IMM-Agent: xpi プロジェクトサーバ（この文書では同じ意味で xpi サーバとも呼びます）を実行している各ホスト上には、IMM-Agent が実行されている必要があります。このエージェントは、xpi サーバを開始および停止するリクエストを処理し、それらのサーバのヘルスチェックをします。複数のホストに IMM-Agent がある場合、それらは統合され、IMM を介して接続されます。

xpi サーバが実行されているホストに常駐するプロセスであり、ユーザの要求に応じてホスト上のトリガを開始及び停止する役割を果たします。複数のホストからにある IMM-Agent は、IMM 経由で統合され、接続されます。

インメモリミドルウェアに定義されているコンポーネントは以下のとおりです。:

- **IMM-Controller**
IMM-Controller は、IMM-Agentn の通信プロセスで、エンジンの開始および停止の要求を受け入れます。
- **IMM-DB**
IMM-DB は、IMM が機能するために必要なすべての運用データが保存されるセントラルリポジトリです。これには、すべての xpi 関連のランタイム データ、プロジェクト メタデータ、およびリアルタイム実行データが含まれます。
- **LOGDB**
LOGDB は、xpi サーバによって生成されるすべてのアクティビティ ログのコンテナとして機能します。
- **IMM-Tunnel**
IMM アーキテクチャ内に存在する Web サービスです。すべての外部リクエスト (HTTP リクエスト、TCP リクエストなど) を処理し、それらを IMM コントローラにリダイレクトします。

- **注意:** HTTP Web サーバトリガーなどに必要な Web サーバを置き換えるものではありません。

xpi Monitor

モニタは IMM とその下で実行されている xpi プロジェクトに関数情報とヘルス関連データを提供するセントラルインターフェースとして機能します。これには、ライセンスの使用状況、サーバの負荷、ワーカのグラフなどのデータも含まれます。

注意: 以前のバージョンの xpi とは異なり、xpi モニタは IMM インフラストラクチャ内に常駐し、xpi サーバ/スタジオのインストールで提供されるインストール可能なサービスではありません。

インストール概要

Magic xpi インストールの手順を以下に示します。:

- インストールの前提内容を準備し、確認します。
- セットアップウィザードを使用して、各アプリケーションサーバに Magic xpi 4.14 サーバをインストールします。 セットアップ時に、サーバの起動と初期構成が実行されます。
- IMM を Magic xpi と統合するためのセットアップ後のウィザードを実行します。
- プロジェクトを共有フォルダに配置し、プロジェクトの起動を設定します。
- オプション: Web リクエスタと SOAP サーバの配置を行います。

インストール前提条件

インストール前に、次の前提条件を確認する必要があります。:

- xpi サーバのインストールは、Windows サービスをインストールするため、xpi インストールを実行するユーザ プロファイルには、サービスを実行するための適切なアクセス許可が必要です。
- すべてのアプリケーションサーバには、Magic xpi の管理ユーザが共有プロジェクトフォルダにアクセスするためのネットワーク アクセスと読み取り/書き込み権限が必要です。
- IMM ミドルウェアは Kubernetes クラスタとしてデプロイされるため、前提条件として Kubernetes を備えた Linux ホストが必要です。これは、Windows 上の WSL を使用してインストールされた VM または Ubuntu アプリによっても提供されます。

xpi サーバと Kubernetes クラスタの間で適切な通信を行うには、すべてのホストのクロックが 15 秒以下の許容オフセットで同期している必要があります。詳細については、[xpi モニタのタイムゾーン設定](#)を参照してください。

セットアップウィザード手順

各アプリケーションサーバで、インストールメディアからセットアッププログラム (setup.exe) を実行します。

setup.exe によりウィザードが実行され、インストールプロセスが始まります。詳細についてはインストールガイドを参照してください。

セットアップウィザード終了後の設定手順

Windows サービスユーザの設定

すべてのアプリケーションサーバで、サービス コントロールパネルに移動して、サービス ユーザを、プロジェクトで必要なすべてのリソースにアクセスするための十分な権限を持つ ユーザに変更します。たとえば、ユーザはプロジェクトを配置しているネットワークドライブに読み書きする権限を持っている必要があります。

サーバライセンスのインストール

Magic xpi 4.14 を実行するにはライセンスが必要です。

1. Magic xpi ライセンス発行センターより送付されたライセンスファイルをコピーし、各アプリケーションサーバに配布するか、共有フォルダに配置します。
2. **Magic.ini** ファイルの **[MAGIC_ENV]** セクションにある **LicenseFile** エントリが共有フォルダ内のライセンスファイルの位置を指すように設定します。
例: **LicenseFile = \\10.1.1.6\licenses\License.dat.**
3. 各プロジェクトフォルダ下の **ifs.ini** のライセンス名が本番サーバライセンスであることを確認します。

[MAGIC_ENV]LicenseName = IBPRSRVI

IMM ミドルウェアのインストールと接続

前提条件

IMM ミドルウェアへのアクセス、デプロイ、管理には次のツールが必要です。:

- IMM インストーラを実行している Windows ホストの場合:
 - [Kubernetes CLI](#) (kubectl)
 - [Helm](#)
 - [PuTTY](#) または同等の SSH および Telnet クライアント
 - [Chocolatey](#) (choco) または同等のパッケージマネージャ (オプション)
- Kubernetes が実行している Linux サーバ

必要なツールのインストール



主な前提条件である Kubernetes CLI と Helm は、さまざまな方法を使用してインストールすることができます。このドキュメントでは、Chocolatey パッケージ マネージャーを使用してこれらのツールをインストールします。Magic xpi インストーラには、セットアップを実行するための inst_k8s_tools.bat バッチ ファイルも同梱されています。そのバッチファイルを次のフォルダに置いてください。<Magic xpi インストールフォルダ>\InMemoryMiddleware\deploy folder.

まず、Chocolatey のインストールを始めます。

Chocolatey のインストール

Chocolatey はパッケージ マネージャーであるため、管理者としてインストールする必要があります。

Windows マシンで管理者として PowerShell を開きます。

次のコマンドを実行して Chocolatey をインストールします

```
Set-ExecutionPolicy Bypass -Scope Process -Force;  
[System.Net.ServicePointManager]::SecurityProtocol =  
[System.Net.ServicePointManager]::SecurityProtocol -bor 3072; iex  
( (New-Object  
System.Net.WebClient).DownloadString('https://community.chocolatey.o  
rg/install.ps1'))
```

Kubernetes CLI と Helm のインストール

Chocolatey が正常にインストールされたら、それを使用して Kubernetes CLI と Helm をインストールできます。

管理者としてコマンドプロンプトを開き、次のコマンドを実行します。:

- `choco install kubernetes-cli`
- `choco install kubernetes-helm`

注意: 必要なツールをインストールした後、マシンの再起動が必要になる場合があります。

kubeconfig の取得

Kubernetes CLI (kubectl) は、通常はユーザプロファイルフォルダに配置される構成ファイルで定義されたサーバと対話します。SSH/Telnet ツールを使用して、Kubernetes を実行しているサーバからこの構成ファイルを取得しましょう。



このファイルを設定するには、下記の順序で行ってください。

- Putty または同等のソフトウェアを開いて、IMM クラスタがセットアップされているホストマシンに SSH で接続します。Putty が接続したら、以下のコマンドを実行します。

```
microk8s config > config
```

- 出力ファイル「config」を Windows ホストの%UserProfile%/.kube フォルダにコピーします。このフォルダが存在しない場合は、コマンドプロンプトで以下の 2 つのコマンドを実行してフォルダを作成します。

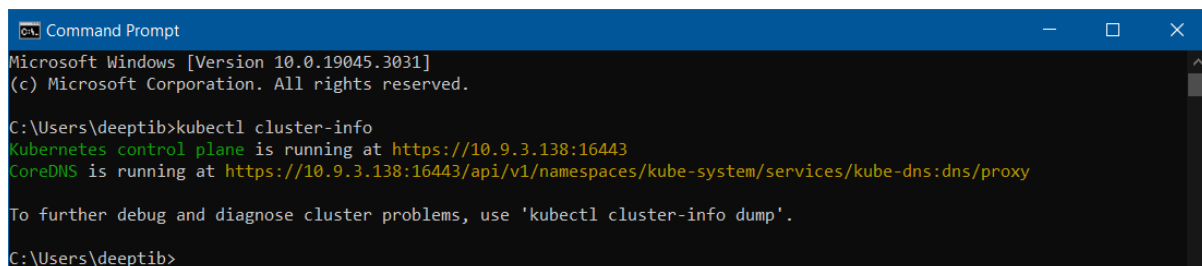
- cd /D %UserProfile%

- mkdir .kube

- 以下のコマンドを使用して構成をテストします。

```
kubectl cluster-info
```

- コマンドが正常に実行されると、IMM クラスタの詳細が表示されます。



```
Microsoft Windows [Version 10.0.19045.3031]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\deeptib>kubectl cluster-info
Kubernetes control plane is running at https://10.9.3.138:16443
CoreDNS is running at https://10.9.3.138:16443/api/v1/namespaces/kube-system/services/kube-dns:dns/proxy

To further debug and diagnose cluster problems, use 'kubectl cluster-info dump'.

C:\Users\deeptib>
```

Accessing IMM Host

インストール時に指定した IMM ホストアドレスがパブリックにアクセスできるホストではない場合は、ホストファイルで設定する必要があります。

下記の hosts ファイルをテキストエディタで開きます。

C:\Windows\System32\drivers\etc in a text editor.

このファイルに次の形式でエントリを追加します。:

<Microk8s クラスタホストの IP アドレス><ホストのドメイン名>

たとえば、ホストに xpi.factoryeye.net を指定し、マシンの IP アドレスが 10.1.2.3 の場合、エントリは次のようになります。

```
10.1.2.3 xpi.factoryeye.net
```

```
10.1.2.3    xpi.factoryeye.net
```

IMM のデプロイ

以下の手順を実行して IMM をデプロイします。:

- <Magic xpi installation>\InMemoryMiddleware\deploy フォルダに移動する。
- コマンドプロンプトを開き、**deploy-imm.bat** バッチファイルを実行します。ファイルは次の引数を順番に受け取ります。引数が何も指定されていない場合は、デフォルト値を使用してクラスタがセットアップされます。

```
deploy-imm.bat <DOMAIN_NAME> <HELM_VERSION> <GLOBAL_SETTINGS_PATH>
<DB_ALERT_CONFIG_PATH> <LOGBACK_PATH> <MONITOR_CONFIG_PATH>
```

- **GLOBAL_SETTINGS_PATH**: `globalsettings.properties` のパスを指定します。このファイルでは、IMM の起動と初期化の時間間隔と再試行メカニズムのプロパティを設定できます。
- **DB_ALERT_CONFIG_PATH** : `db_alert_config.properties` ファイルのパスを指定します。このファイルでは、IMM の重大な状態、高 CPU 使用率、およびメモリ使用量に関する電子メールアラートを設定できます。
- **LOGBACK_PATH**: `logback.xml` のパスを指定します。このファイルでは、`loggers`、`appenders` を設定し、さまざまな xpi コンポーネントのログレベルを変更できます。
- **MONITOR_CONFIG_PATH**: モニタ構成ファイルへのパスを指定します。このファイルでは、XPI モニタの SSO ログインを構成し、ロケール (言語) を英語 (en-US) または日本語 (jp-JP) に変更できます。

引数が指定されていない場合、セットアップは `config` フォルダ内の構成ファイル (DB Alert を除く) から必要な値を選択します。DB アラートのデフォルト ファイルは、`Runtime\config` フォルダから選択されます。

- IMM セットアップが完了したら、以下のコマンドを使用して、すべての POD が IMM クラスタ内で実行されているかどうかを確認できます。:

```
kubectl get pods -n magic-xpi-imm-ns
```

すべての POD が実行状態になった場合、次のような出力が表示されます。


```
Command Prompt
C:\Users\deeptib>kubect1 get pods -n magic-xpi-imm-ns
NAME                                READY  STATUS   RESTARTS  AGE
xpi-monitor-6bcf694469-71d67        1/1    Running  0          25h
imm-tunnel-deployment-fcd78d7c8-c4mj9  1/1    Running  0          25h
imm-db-0                              1/1    Running  0          25h
xpi-imm-server-deployment-9bb78895d-qz1ws  1/1    Running  0          25h
logdb-669cbd76f6-2w9g8              1/1    Running  0          25h
imm-controller-5d7fc5bb6d-gmbqh       1/1    Running  0          25h
C:\Users\deeptib>
```

ブラウザで URL を実行して、すべてのサービスが実行されているかどうかを確認することもできます。

- Magic Monitor: [https://\[IMM Domain Name\]/magicmonitor/#/auth/login](https://[IMM Domain Name]/magicmonitor/#/auth/login)
例) <https://xpi.factoryeye.net/magicmonitor/#/auth/login>
- IMM-Tunnel : [https://\[IMM Domain Name\]/immtunnel](https://[IMM Domain Name]/immtunnel)
例) <https://xpi.factoryeye.net/immtunnel>



IMM-Agent を実行しているマシンと IMM ホスト マシンの時刻とタイムゾーンの値は同じである必要があります。時間とタイムゾーンの値が異なると、リカバリ ポリシーが正しく実行されない可能性があります。

xpi モニタのタイムゾーン設定

xpi Monitor のタイムゾーンは、<Magi xpi インストール>\InMemoryMiddleware\deploy フォルダにある values.yaml ファイルの immMonitor デプロイメント セクションで TZ 環境変数を使用して定義できます。このタイムゾーンは、モニタのすべてのタブで定義されたタイムゾーンに基づいて時刻を表示するために、XPI モニタによって使用されます。デフォルトのタイムゾーンは米国/中部です。必要に応じて変更できます。

エージェントの起動

エージェントを起動するには下記の手順で実行します。

- <Magic xpi installation>\InMemoryMiddleware\agent に移動し、コマンドプロンプトから imm-agent.exe アプリケーションを実行します。
- 追加の証明書をダウンロードしたりインストールしたりする必要はありません。

注意: xpi プロジェクトを実行またはデバッグする前に、IMM-Agent は常に実行状態にする必要があります。

複数ネットワークカード構成の場合の設定(オプション)

アプリケーションサーバに複数のネットワークカードが存在する場合、特定のネットワークカードを使用するよう、以下のように Magic xpi 4.14 サーバを設定します。:

1. 該当ネットワークカードに割り当てられた IP、あるいはネットワークカード名を保持するために、以下のファイルを修正します。
ファイル名: <Magic xpi インストール先>\Runtime\Gigaspace\bin\magicxpi-setenv.bat
修正エントリ: NIC_ADDR
修正例: NIC_ADDR=10.1.1.11 あるいは NIC_ADDR="#eth0:ip#"
(eth0 はネットワークカード名)

注意:ホスト名や IP アドレスはシングルクォーテーションで囲む必要はありません。

IMM 用の Linux Host の構成

IMM インフラストラクチャをホストするには、オンプレミスまたはクラウド上の Linux マシンを使用できます。開発目的の場合は、WSL でも同様にセットアップできます。MicroK8S を使用して WSL 上に IMM インフラストラクチャをセットアップする手順を以下に示します。

前提条件

Windows 10 version 1909(OS build 18363.1049) 以上

WSL 有効化

WSL を有効にするには、次の公式 WSL ドキュメントを参照してください。

<https://docs.microsoft.com/en-us/windows/wsl/install>

注意: WSL が更新されていることを確認してください。次のコマンドを実行しても同様に更新できます。:

```
wsl --update
```

Ubuntu のインストール

1. Windows ストアに移動し、Ubuntu 22.04.xx LTS を検索します。
2. 「取得」ボタンをクリックして、ローカルマシンにダウンロードします。
3. ダウンロードが完了したら、「開く」ボタンをクリックします。すると、インストールが開始されます。システム構成によっては数分かかります。



- 次に、UNIX ユーザアカウントを作成するように求められます。ガイダンスに従ってユーザ名とパスワードを設定します。これでインストールは終了です。

注意: ユーザ名とパスワードは記憶しておいてください。後ほど必要になります。

Installing MicroK8S

- 次のコマンドを使用して **MicroK8S** をインストールします。

```
sudo snap install microk8s --classic
```

注意: このコマンドを実行中に下記に類似したエラーが表示された場合、

error: cannot communicate with server: Post "http://localhost/v2/snaps/microk8s": dial unix /run/snapsd.socket: connect: no such file or directory

下記のコマンドを実行し、**MicroK8S** を再インストールしてください。

- `sudo apt-get update && sudo apt-get install -yqq daemonize dbus-user-session fontconfig`
- `sudo daemonize /usr/bin/unshare --fork --pid --mount-proc /lib/systemd/systemd --system-unit=basic.target`
- `exec sudo nsenter -t $(pidof systemd) -a su - $LOGNAME`

MicroK8S のインストールが成功したか、下記のコマンドを使用して確認してください。

```
microk8s status
```

このコマンドを実行すると、ステータスは実行中と表示されるはずです。

WSL マシンの IP アドレスの検索

WSL マシンの IP アドレスを知るには、下記のコマンドを実行してください。:

```
ifconfig
```

このコマンドを実行している際にエラーが発生した場合、下記コマンドをまず実行してください。:

```
sudo apt install net-tools
```

システムの IP アドレスをメモしておいてください。**MicroK8S add-ons** を有効にする時に必要になります。

MicroK8S add-ons の有効化

MicroK8S がインストールされたら、以下の `microk8s add-ons` をインストールする必要があります。:

1. dns

有効にするには下記のコマンドを実行してください。

```
sudo microk8s enable dns
```

2. metallb

有効にするには下記のコマンドを実行してください。

```
sudo microk8s enable metallb
```

IP 範囲の入力を求められたら、<WSL の IP アドレス>-<WSL の IP アドレス>として指定します。

2つの `add-ons` を有効にすると、システムに IMM をインストールする準備が整います。

xpi インストールでの IMM ドメイン名の管理

インストール中に指定された IMM ドメイン名は、以下にリストされている複数のファイルで参照されます。ドメイン名に変更がある場合は、次のすべてのファイルを変更する必要があります。:

- [Magic xpi Installation]\Runtime\Magic xpa\magic.ini
- [Magic xpi Installation]\InMemoryMiddleware\agent\env
- [Magic xpi Installation]\InMemoryMiddleware\imm-logger\IMM_Controller_Log.bat
- [Magic xpi Installation]\InMemoryMiddleware\imm-logger\IMM_Tunnel_Log.bat
- [Magic xpi Installation]\Runtime\MgxpCmdl.bat
- [Magic xpi Installation]\Runtime\mgreq.ini
- [Magic xpi Installation]\Runtime\scripts\config\mgreq.ini
- [Magic xpi Installation]\xpi_webserver\webservice-config\config.properties
- [Magic xpi Installation]\Studio\Debugger\Install_Debug_services.bat
- [Magic xpi Installation]\Studio\Debugger\apache-tomcat\bin\service.bat

xpi インストール内のファイルとは別に、`hosts` ファイル内のドメイン名も更新する必要があります。

Magic xpi のインストールには、上記で指定されたファイルのリストを更新された IMM ドメイン名で自動的に更新する imm-updater ユーティリティも提供されています。このユーティリティは、<Magic xpi インストール>\InMemoryMiddleware\imm-updator にあります。このユーティリティを実行するための詳細な手順は、同じフォルダ内の readme.txt に記載されています。

ファイアウォールの設定

IMM は以下の表にあるコンポーネントに対するアクセスを必要とし、これらのポートはファイアウォール設定でアクセスを許可する必要があります。これら全てのポートへの受信および送信を許可するようにネットワークインフラストラクチャを構成する必要があります。

コンポーネント	ポート
LOGDB	27017
IMM-DB	6739
Controller	80 and 443
IMM 以外で、ポートを有効にする必要があるサービスは以下の通りです。:	
Webservices	6443



上記の表は包括的なリストではないので、追加のポートが必要な場合は、ファイアウォール構成で許可する必要があります。

プロジェクトのデプロイ

プロジェクトフォルダの位置

Magic xpi のプロジェクトは全てのアプリケーションサーバからアクセスできる共有フォルダに配置することをお勧めします。共有フォルダは潜在的にシングルポイント障害(SPOF)の可能性がありますが、今日のストレージシステムにおいてこの種のリソース場合、通常自らの高い冗長性を備えています。

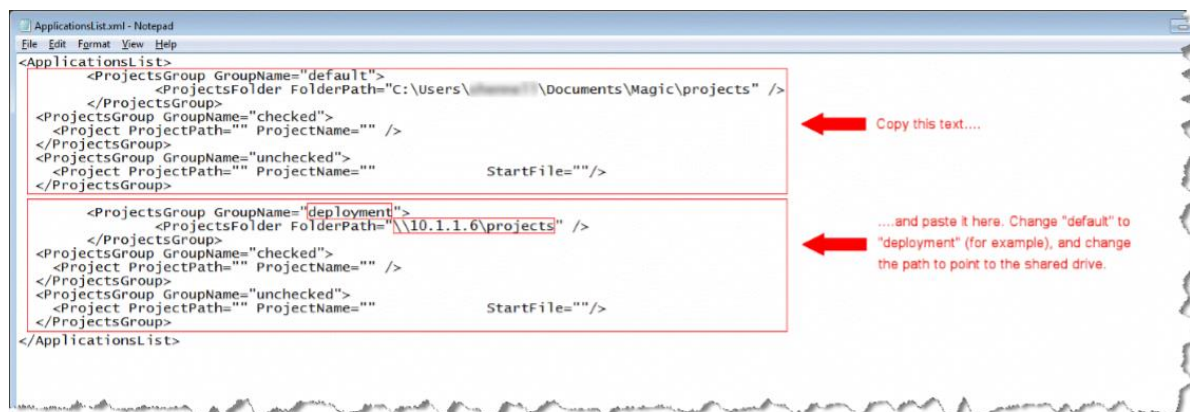
プロジェクトのデプロイ

プロジェクトを配置するには、開発/ステージング環境から共有フォルダの各場所に各プロジェクトのフォルダをコピーする必要があります。データベースやエンタープライズシステム等の外部リソースにアクセスするようなプロジェクトの場合は、設定 ダイアログボックスのリソースやサービスを編集して、サーバの接続情報や資格情報を設定する必要があります。

モニタでのプロジェクトの開始/停止

Magic モニタには、Runtime\config フォルダ下の ApplicationsList.xml ファイルに定義してあるプロジェクトが表示されます。

1. あらかじめ定義してあるテキストの内容をコピーし、既存のインスタンスの下に新しいインスタンスとして貼り付けます。



ProjectsFolder FolderPath は、すべてのプロジェクトが保存されているパスです。

Project ProjectPath は、start.xml ファイルおよびプロジェクト内のすべてのファイル含むプロジェクトフォルダへのパスです。このプロジェクトフォルダは一意である必要があります。

2. 新しいセクションで、default という文字列を deployment などの別の名前に変更します。
3. 新しいセクションで、パスを ¥¥10.1.1.6¥¥projects などの共有ドライブを指すように変更します。

4. ファイルを保存します。
5. **Magic xpi** リンクをクリックしてから **全プロジェクト閲覧** リンクをクリックし、モニタの表示内容をリフレッシュします。

注: 特定のグループのプロジェクトをモニタに表示したくない場合は、FolderPath エントリを空のままにするのではなく、<ProjectsGroup>タグのブロック全体を削除します。

Applicationlist.xml の例は以下の通りです。

```
<ApplicationsList>
  <ProjectsGroup GroupName="default">
    <ProjectsFolder FolderPath="c:\Users\ABC\Documents\Magic\Projects"/>
  </ProjectsGroup>

  <ProjectsGroup GroupName="My first 2 projects">
    <Project ProjectPath="C:\Temp\projects\Project1\Project1"
      ProjectName="Project1"/> <!--a project folder that contains the project's files
      including the start.xml file-->
    <Project ProjectPath="C:\Temp\projects\Project2"
      ProjectName="Project2" StartFile="start2.xml"/> <!--a project folder that contains
      the project's files including a "non-default" start2.xml-->
  </ProjectsGroup>

  <ProjectsGroup GroupName="all QA's projects"> <!--an additional and separate
  projects folder-->
    <ProjectsFolder FolderPath="D:\Different Project Folder\QA"/>
  </ProjectsGroup>
</ApplicationsList>
```

注意:

- IMM に接続する xpi サーバを使用して複数のホストを操作する場合、**ApplicationList.xml** 内のプロジェクトのリストはすべてのホストで同一である必要があります。
- 「localhost」は、Magic xpi プロジェクトの start.xml ファイル内のホスト名としてサポートされていないため、プロジェクトが無期限に WAITING_FOR_AGENT ステータスになる可能性があります。
- Projectstartup.xml によるプロジェクトの自動起動はサポートされていません。

コマンドラインからのプロジェクトの起動 (オプション)

プロジェクトはコマンドラインから開始することができます。コマンドラインからプロジェクトを開始するには:

1. プロジェクトフォルダの **Start** リンクに移動します。
2. 右クリックし、**プロパティ オプション** を選択します。



3. [リンク先]内のテキストは次のように表示されるはずですが。
4. "Magic xpi インストールフォルダ\Runtime\MgxpiCmdl.bat" start-servers -startup-config-file "<Magic xpi installation>\Runtime\projects\Project1\start.xml"
5. このパスは、プロジェクトの下にある特定の start.xml ファイルを指します。パスを変更して、複数のプロジェクトをロードできる構成を持つ他の start.xml ファイルをロードできるようにしてください。
6. OK をクリックします。

Magic モニタユーザ

デフォルトのユーザはインストールの中で設定されます。このユーザのログインの詳細は次のとおりです。:

User: **Operator**. Operator はプロジェクトを開始および停止できます。:

- a. ユーザ名: **administrator**
- b. 初期パスワード: **changeit**

xpi Monitor の Azure 認証

Azure-SSO を使用して xpi Monitor にログインすることもできます。このためには、2 つの手順を実行する必要があります。

1. IMM ホスト マシンで証明書を構成する

Azure 認証には、Kubernetes クラスタがデプロイされている IMM ホスト マシンにインストールされている、関連するドメイン名を持つ有効な証明書が必要です。このためには、適切な認証局からドメインの証明書を取得し、証明書とそのキーを IMM ホスト マシンにコピーします。詳細な手順については、Linux ホストでの証明書のインストールと構成に関する Linux ドキュメントを参照してください。

2. Monitor 構成で Azure SSO の詳細を構成する

<Magic xpi インストール>\InMemoryMiddleware\config フォルダにある config.json ファイルを開きます。ここで、Azure SSO で認証するための **clientId**、**authority**、**redirectUrl** を編集します。システム管理者と協力してこれらの値を取得できます。

これらの手順が完了したら、変更を反映するために IMM を再デプロイする必要があります。

次に、xpi Monitor ログイン ページで、[Azure-SSO でログイン] ボタンを使用します。デフォルトのユーザ名とパスワードは、このモードでは機能しません。

Azure 認証では、HTTPS プロトコルを使用して xpi Monitor にアクセスする必要があります。



Web リクエストと SOAP サーバのデプロイ

前提条件

- Web リクエストを使用する場合、IIS7 が必要です。
- Java Web リクエストを使用する場合、Apache Tomcat 8 以降が必要です。

Magic xpi サービスはこのマシンでは実行されないため、外部リクエストをホストするためにのみ使用され、グリッドコンポーネントや Magic xpi エンジンを実行されません。

Java Web リクエスト

Java Web リクエストを使用するには以下の PDF ファイルを参照してください。:

ファイル名 : Magic xpi – Web Server Instration.pdf

フォルダ : <Magic xpi インストール>\Runtime\Support\JavaWebRequester\Tomcat

ライセンス

Magic xpi 4.14 のライセンスメカニズムは、基本的にフローティングライセンスの形態をとっていますが、各プロジェクトに最少ライセンススレッド数を確保するオプションがあります。

各プロジェクトのライセンススレッドの確保

複数プロジェクトを実行する時、Web サービスや HTTP リクエストのように頻繁なアクセスを実行するプロジェクトでは、全てのスレッドを消費してしまう可能性があります。そのような場合、他の重要なプロジェクトを継続的に実行するためには、そのプロジェクトに対し、最小数のライセンススレッドを確保するよう考慮する必要があります。具体的な設定方法は、Magic xpi ヘルプの[ライセンススレッドの予約](#)を参照してください。

ホストロックライセンス

Magic Software Enterprises および Magic Software Japan によって提供される全てのライセンスは、ホスト毎に提供されます。一度アクティベートすると、アクティベートしたそのマシン上でそのライセンスを使用しなければなりません。Magic xpi 4.14 のクラスタ環境では、クラスタ全体に対して1つのホストロックライセンスが必要になります。すべての Magic xpi インストールは、同じライセンスファイルを指すように設定する必要があります(共有フォルダに配置することができます)。全ての Magic xpi サーバは、別のホストで動作していても正常に起動しますが、ロックされたホストのサーバが Magic xpi エンジンを実行するまでフローは実行されません。ホストロックサーバ上で実行される Magic xpi エンジンのみが、スペースに対してスレッドのカウントをアップデートすることができます。

Magic Software Enterprises について

Magic Software Enterprises (NASDAQ: MGIC) は世界中の顧客とパートナーが、様々な側面でエンタープライズロジック/データによるユーザ体験をできるよう、よりよい技術をご提供します。

30年に及ぶ経験とワールドワイドでの数百万のインストール実績、IBM, Microsoft, Oracle, Salesforce.com, SAP 等のグローバル IT リーダーとの連携によって、お客様が新しい技術をシームレスに導入でき、ビジネスの機会が最大限に生かせるよう努力します。

詳細については www.magicsoftware.com をご覧ください。



Magic is a registered trademark of Magic Software Enterprises Ltd. All other product and company names mentioned herein are for identification purposes only and are the property of, and might be trademarks of, their respective owners.

Magic Software Enterprises has made every effort to ensure that the information contained in this document is accurate; however, there are no representations or warranties regarding this information, including warranties of merchantability or fitness for a particular purpose. Magic Software Enterprises assumes no responsibility for errors or omissions that may occur in this document. The information in this document is subject to change without prior notice and does not represent a commitment by Magic Software Enterprises or its representatives.

© Magic Software Enterprises, 2019-2023

